

ミニシンポジウム「消化管疾患における漢方薬の役割」

司会 武田宏司（北海道大学大学院薬学研究院医療薬学分野・臨床病態解析学）
堀江俊治（城西国際大学薬学部薬理学研究室）

【司会の言葉】

近年、消化管の分野においても最新の研究成果に基づく新規薬剤が次々と導入され、治療の選択も飛躍的に広がりつつある。しかしながら、依然として西洋医学で解決できない諸問題も存在し、漢方医学を中心とした伝統医薬は、西洋医学を補完する医療として国際的にも注目されているのも現状である。疾患によっては治療、予防の第一選択として利用されるに至っており、基礎・臨床研究を通して、その有用性を検証する必要があると考えられている。

消化管領域においても機能性胃腸症などの機能的な疾患や、潰瘍性疾患、炎症性疾患など基質的な疾患に対しても臨床成績のみならず、漢方薬の基礎的な作用メカニズムを明らかにする試みがなされており、それらの情報をもとに診療における漢方薬の重要性が注目されている。

本シンポジウムは消化管の様々な疾患・病態における漢方薬の効果に関して、基礎的もしくは臨床的な研究成果を広く公募し、その有用性を検討したいと考えている。